

中東の市場動向

サウジアラビア・アラブ首長国連邦についての考察

1. 中東における有料放送・ICTの成長

中東では、トルコを中心に有料放送の成長が予想されており、2020年には中東および北アフリカ地域で56億ドルと2010年から83%の増加が見込まれている。有料放送の種類別では、主流は衛星放送であるものの、IPTVの成長率は目覚ましく、デジタルケーブルテレビもこれと比較すると緩やかながら今後の成長が予想される。

また、サウジアラビアやアラブ首長国連邦を含む中東では、今後ICT投資が増加し、企業でのIT利活用やEガバメント化が進むとの見方が一般的である。

表1 中東・北アフリカの有料放送売上推移・予測 (USドル)

	2010年	2013年	2014年	2020年
地デジ	0	12	15	42
IPTV	88	284	392	983
アナログケーブルTV	426	338	284	28
デジタルケーブルTV	544	680	701	802
衛星放送	1,989	2,790	3,016	3,741

出典：digital TV research, Jan. 2014

2. サウジアラビア・アラブ首長国連邦の動向

中東の中でも、日本の2大原油輸入先であるサウジアラビアとアラブ首長国連邦は、世界金融危機後の2009年以降は実質GDP成長率が回復傾向にあるが、2013年以降の成長は鈍化もしくは同レベルを維持すると考えられる。しかしながら、分野別で見ると、建設や運輸・通信は石油など鉱業のような影響は2009年にも見られず、安定した推移を続けている。

また、サウジアラビアは日系企業が80社前後と比較的少ないものの、2013年5月に、日・サウジアラビア投資協定が調印されるなど、今後の企業活動の投資先として期待されている。一方、アラブ首長国連邦には270社以上の日系企業が進出しており、工業製品の輸出入のハブとして日本企業からの機械器具輸入をおこなっている。

表2 実質 GDP の推移

	サウジアラビア (100 万サウジ・リヤル)					アラブ首長国連邦 (100 万ディルハム)				
	2008年	2009年	2010年	2011年	2012年	2008年	2009年	2010年	2011年	2012年
全体 (成長率)	8.3%	1.9%	7.5%	8.5%	6.8%	3.2%	▲4.8%	1.7%	3.9%	4.4%
建設	67,430	68,474	75,818	83,300	91,847	104,443	106,213	105,426	102,763	102,849
運輸、 通信	78,238	87,247	96,460	109,768	121,459	85,033	87,605	88,256	91,079	93,279

出典： ジェトロ J-FILE, 2013

① サウジアラビアの放送・通信

イスラムの戒律を気にせず楽しめる貴重な娯楽のひとつとしてテレビ視聴が位置づけられていることもあり、地上放送の視聴シェアが5%程度と低い代わりに、衛星放送のシェアが90%以上を占めている。2010年ごろからはIPTVサービス（Invision）の配信も始まっており、利用者層が拡大しつつある。

通信面では、固定系のブロードバンド普及率が2012年時点で人口の6.8%なのに対し、モバイルブロードバンドは42.8%と広く利用されている。

② アラブ首長国連邦（ドバイ）の放送・通信

首長国の一つドバイは、税の免除やビザの緩和策がとられたフリーゾーン「ドバイ・メディア・シティ」や「ドバイ・スタジオ・シティ」があり、外資を含む1200社以上の放送局や通信局が拠点を置いている。

IPTVサービスや通信の傾向はサウジアラビア同様で、2010年ごろからは、IPTVサービス（eLife TV等）がスタート。ブロードバンド普及率は2012年時点で人口の11.7%と低いのに対し、モバイルブロードバンドは50.9%と広く利用されている。

Topics

衛星ニュースチャンネル「アルアラブ (Alarab)」
アラビア語のニュースを配信する衛星放送。バーレーンのマナーマに拠点を置き、サウジアラビア、アラブ首長国連邦他、世界72カ国・約3億人のアラブ人向けに放送をおこなっている。

(2011年～)

サウジアラビア王家の企業家アルワリード・ビン・タラール王子が出資。



図1 中東地図